

【生物実習ポスター発表】

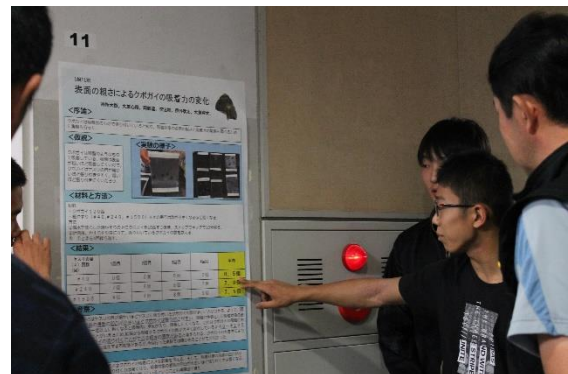
10月10日(木)仙台第一高等学校にて、一年生の生物実習ポスター発表会が行われました。どの班の発表も聴衆に伝えようという意思が感じられるものでした。

【発表を終えて】

今回の生物実習ポスター発表会は、9月12日のクラスごとのポスター発表会を踏まえて、各班で発表内容を改善して臨みました。発表は7分間、質問を含めて10分間で、計3回、二年生と保護者に向けて行われました。質疑応答の場面では、二年生や保護者からの鋭い質問に苦戦しながらもなんとか答えようとしている姿が見られ、ゼミ研究への期待が感じられました。しかし、改善すべき点も見受けられました。

改善すべき点

- ・ **声の大きさ** : 会場は、他の班の発表の声や、聴衆の話す声などがあるため、声が通りにくいです。それを考えて声の大きさを調節する必要があります。また、声の強弱をつけることは、伝えたいことをしっかりと伝えるうえで重要なポイントです。せつかくの、長期にわたる研究の成果が相手にうまく伝わらないのはとてももったいないので、これらのポイントに気を付け、ゼミ研究の発表にいかしましょう。
- ・ **ポスターのデザイン** : ポスターのレタリングに関して、色を使いすぎていて逆に見えづらい、背景の色と使う文字の色が合っていない、ポスターを見たとき、どこが一番重要な箇所なのかがすぐにわからないなどの意見がありました。そのため、発表を伝える相手の立場になって配色やレイアウトなどを考える必要があります。
- ・ **データ収集不足** : 今回の生物実習では、青森での3時間の実習時間で得たデータのみを用いたため、合同巡検の後になってデータの収集不足や、正確性の欠如に気付いた班も多かったようです。もちろん、ゼミ研究では長い時間をかけてデータを集めていくので、生物実習ほどデータ不足が深刻になることはありません。しかし、質の高い研究成果を出すためには、一年以上の時間を長いと思うことなく、時間を有効に使って良質なデータを集める必要があるでしょう。



【課題研究講演会】

11月7日に行われた課題研究講演会では酒井聡樹先生（東北大学大学院生命科学研究科 准教授）をお招きして、課題研究とはそもそもどのようなものか、テーマ設定の仕方など、私たちが実践できる具体的な講演をしていただきました。

〈これから研究を始める仙台一高生のために〉

1. 【講演内容】

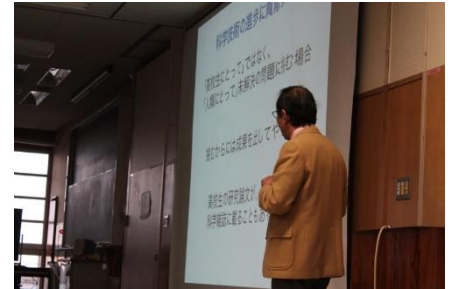
・研究とは、問題を見つけその問題解決に貢献し、その成果を他者に伝えることである。そのため、自分の興味を他者の興味にすることが大切である。また学術的問題とは、人類(高校生)にとって未解決でありその解決を多くの人(高校生)が望んでいるものである。

・答えが出なかったとしても、失敗の原因や改善策は次に研究する人に貢献したことになる。だから、問題を完全に解決できなくてもよい。

・研究の目的とは「科学的思考力を養う」「研究成果を他者に伝える技術を身につける」「実験・観察・調査の能力を培う」「科学技術の進歩に貢献する」の4つである。

・問題の発見は、科学技術が進む方向を決めるものであり、解決と同等に重要である。

・研究しているときはやたらと行き詰まってしまう。だから、忍耐強く研究に取り組むことが重要である。



2. 【感想・結果の抜粋】



・多くの人々が解決を望んでいる問題を研究し、発表の内容も他社に興味を持ってもらえるよう工夫して、前回の浅虫での実験から成長した研究、発表がしたい。

・私はしてみたい研究が沢山あったが、その大半がしてみたいというただの興味本位のものばかりであったと感じた。誰へ伝えるのか、何のために研究するのかを忘れていたので、それを軸として考え直していこうと思った。

・取り組む問題とその意義がどちらも明確であってこそ他者に興味を持ってもらえるのであって、自分が興味を持った、という自分を主体とした考えでは他者に興味を持ってもらえないというのはもっともだと思った。

【編集後記】

発表もまとめも終わり、生物実習の活動が終わりました。ここからはいよいよ、ゼミ活動に入っていきます。ゼミ活動では、各分野に分かれることでより専門的な研究をすることができます。

さて、課題研究講演会はいかがだったでしょうか。ゼミ活動が始まるといっても研究の進め方、考え方はわからなかったはずですが。そのため、この講演はそれを補ってくれたことでしょうか。また、ゼミ活動の序盤には2年生との合同で行う活動もあります。そこでも、詳しく知ることができると思います。

千葉博幸先生曰く研究は出だしが重要だそうです。研究の意義をつかみ、これから有意義な学術研究を作り上げていきましょう。